

『真言密教の思想と信仰―空海・静遍・道範・道順―』

はじめに

第一章 空海の思想と信仰

第一節 弘法大師を巡る信仰について―即身成仏・入定・留身・舍利―

第二節 『声字実相義』について―その思想的背景を中心として―

第三節 弘法大師空海の『入楞伽經』理解―特に『秘密漫茶羅教付法伝』を中心として―

第四節 弘法大師空海の『大智度論』理解―『辯頭密二教論』を起因として―

第五節 『金剛頂経開題』にみる思想的特徴について

第六節 『選択本願念仏集』に説かれる五逆重罪について―空海思想の影響―

第七節 空海と茶(道)と聖なる空間―空海・永忠・嵯峨天皇―

第八節 空海の唱えた心身智無量論

第九節 『秘密漫茶羅十住心論』の撰述を巡る問題について

第二章 静遍の思想と信仰―理智事三點説の提唱―

第一節 禅林寺静遍の提唱した教学について―特に教主論を中心として―

第二節 禅林寺静遍の草木非情成仏説について

第三節 静遍の教学の特徴について

第四節 静遍の信仰について

第五節 静遍の『釈摩訶衍論』観について―『顕密二教論手鏡鈔』を手掛かりとして―

第三章 道範の思想と信仰―秘密念仏思想・南無大師遍照金剛の提唱―

第一節 覚本房道範の生没年について

第二節 道範の大日・阿弥陀・釈迦観について―本地自性身・能加持身・所加持身に注目して―

第三節 道範記『菩提心論談義記』について

第四節 道範撰『金剛頂経開題勘註』について

第五節 道範記『初心頓覚鈔』について

第六節 『声字実相義抄』に説かれる如義言説について―禅宗(宋朝禅)と真言宗の交渉を中心として―

第七節 真言密教における生死観―特に道範の周辺を中心として―

第八節 道範の『釈摩訶衍論応教鈔』について

第四章 道順の思想と信仰―醍醐教学・二根交会―

第一節 道順記『常盤井殿記録』について

第二節 『常盤井殿記録』にみる真言教学について

第三節 『常盤井殿記録』翻刻

第五章 思想と信仰の諸相

第一節 勅撰・信堅記『釈摩訶衍論私記』の総演大意について

第二節 『釈摩訶衍論』所説の両輪具闕益損門について

第三節 本圓の『両部曼茶羅義記』について―真言密教と曼茶羅―

第四節 『講演録』『平家物語』と「高野山参詣曼茶羅」

第五節 『講演録』「熊野参詣曼茶羅」にみる信仰について

第六節 『講演録』密教における身体論について―五臓論に注目して―

第六章 安心論の思想と信仰

第一節 真言密教における安心論の展開―空海の思想と生きる意味―

第二節 憲深の『宗骨抄』にみる生死観―安心の導入―

第三節 長谷宝秀師の安心(三句「因・根・究竟」安心説)

第四節 梶尾祥雲師の安心(秘密莊嚴安心説と標語「遍照金剛」の提唱)

第五節 大山公淳師の安心(同行二人安心説)

第六節 上田天瑞師の安心(本具仏性安心・大師信仰安心・修行累徳安心・世業勤務安心説)

第七節 亀井宗忠師の安心(凡聖不二安心・三密安心説)

第八節 空海の思想と現代

あとがき

索引